

## ～オンラインによる手話通訳者派遣について～

### ◆主催者の方へ

### 🍀手話通訳者（情報保障者）の方へ

#### 1 ◆はじめに

令和元年の新型コロナウイルス感染拡大予防のため、各地域での遠隔手話通訳の必要性がクローズアップされてきました。これまで手話通訳派遣は現場に参集し実施することが望ましいとされてきましたが、今回の未曾有の新型コロナウイルスの感染拡大により、当事者、主催者や参加者、及び情報保障者の感染防止等の観点から、新たな方法としてオンラインでの派遣を実施することになりましたが、感染対策が徹底されてきた現在では、新しい形として定着しつつあります。

オンライン派遣用のソフトは様々なものがありますが、基本的に「団体派遣」(\*)（複数派遣）の場合には、当センターでは Zoom を用いて実施してきました。

団体派遣(\*)の場合の、必要な機材、課題をまとめましたので、参考にしてください。

\*「団体派遣」とは神奈川県障害福祉課や、神奈川県で活動する聴覚障害者協会や、身体障害者連合会等の団体、企業等からの依頼に基づくものを「団体派遣」としています。内容も主に会議や、研修、イベント等が多いです。

#### 2 ◆個人派遣

個人の聴覚障がい者が、病院、学校等で手話通訳派遣を受けるときには、当事者がお住いの各市町村へご相談・ご申請をお願いします。（ここでは割愛します）

\*市町村が、聴覚障がい者個人から申請があった、または遠隔通訳が必要と判断した場合で、当該市では派遣が難しい場合には、神奈川聴覚障害者総合福祉協会で、ご相談を受けることができます。必ず引き受けられるわけではありませんが、よりよい方法を一緒に確認していきます。

#### 3 ◆実施方法

##### 実施場所

現在神奈川県聴覚障害者福祉センターでは、下記3つの方法を実施しています。

##### ① 派遣現場からのオンライン情報保障

ア 会場（会議、研修、イベント等の実施会場）からの情報保障

イ 会場以外の別室からの情報保障

主催者がハイブリット方式で、参集とオンラインを同時に行う場合などがあげられます。

##### ② 派遣現場以外の拠点場所からのオンライン情報保障

主催者や参加者がそれぞれ自宅か別のところにいますが、通訳者は拠点場所に集合し、そこから情報保障をします。（①と②は通訳者同士は同じ部屋にいますので、連携が取りやすい、また音源も同じ

音源で聞くように設定でいます)

- ③ 情報保障者の自宅からのオンライン情報保障  
通訳者個人の自宅から実施する場合があります。

\*インターネット環境が整っているか、事前に確認をお願いします。  
困難事例) 会場が地下だったため、Wi-fi が弱く接続ができなかった。

## 4 ◆ 機材



### 1 カメラ付きパソコン

- ・派遣人数により準備するパソコン台数が変わるが、2人～3人の派遣なら2台を確保したほうがやりやすい
- ・ZOOMのアプリがインストールされて常に最新のバージョンにアップされている
- ・PCも最新の状態にアップデートされていること

### 2 ミニアンプ

- ・1台のパソコンからの音源を分配して聞くためのものでヘッドセットが必要になりますが、分配せず、ヘッドフォンも使用せず、スピーカーを使用して実施することもあります。その場合ハウリング等注意が必要です。



- 3 ヘッドセット (マイク付きヘッドフォン)
- 4 LAN ケーブル
- 5 ハブ
- 6 マイク (読み取りの際には、指向性マイクを準備)
- 7 延長コード (必要に応じて)
- 8 ライト (逆光や会場の暗い場合の対策。必要に応じて使用)

\*ポケット wi-fi も通信状況が心配な時には準備をしておくとう便利です。

## 5 ◆ セッティング

主催者が会場を準備して上記「4」のセッティングをしていただくことが望ましいです。また「ホスト」は基本主催者ですが、共同ホストにさせていただく場合があります。

(拠点での手話通訳派遣)



## 6 ◆ 🍀 打ち合わせ

打ち合わせ時にはオンライン手話通訳派遣ならではの確認事項があります。

\*オンライン会議において、手話通訳者等が調整をお願いする担当者を必ず決めてください  
画面設定

- ① 講師・資料・手話通訳者等の2～3画面をメインに構成する場合、手話通訳者の大きさは、見やすい大きさに固定で設定する。(スポットをあてておき、動かさない) 例 右上写真  
通訳者を画面の上、また下に小さく設定すると、見えません。
- ② 双方の音声は聞こえるか。
- ③ 通信状況が安定せず、途絶えた場合の、緊急連絡方法 (携帯電話やLINE等別の連絡手段)

- ④ 聴覚障がい者との打ち合わせ（画面の大きさ、読みとりの必要性の確認等）
- ⑤ チャットの使用についての確認（緊急な対応にチャットを使用する）
- ⑥ 会話が重ならない様をお願いをする。
- ⑦ 資料は事前に主催者より提供をお願いしていますが、当日の場合はメールで送付をお願いする。
- ⑧ 手話通訳業務は、手話表現と、手話読み取りがあります。切り替わりの時は、ミュート（消音）のON/OFF等マイク操作が必要になり、数秒時間を要することがあります。
- ⑨ 休憩時間の際、前半の通訳方法で特に問題はなかったか、聴覚障害者と確認ができると後半に活かせるより良い手話通訳ができます。

## 7 手話表現の方法

- ① 手話は前に出すと、手だけが大きく映ります。  
なるべく「胸の近く」に手を引きよせて、コンパクトかつ前後の動きの表現の際は体を少し斜めにして、見やすく手話通訳をします。
- ② 目線があわないことがあります。常に目線が下がり、違和感を感じる時の声があります。カメラの位置・椅子の高さ、画面に入る顔と手話の調整をします。
- ③ 表現をするスピードが速すぎると手がぶれて見えません。
- ④ 画面上に見る手話通訳は、単語が多すぎると、疲労度が増すようです。派遣時間や、内容により、単語の数などを調整し、はっきりとわかりやすく表現します。
- ⑤ 通信がスムーズでない場合は読み取りにくい。または、音声も聞きにくく、表現しにくいことがあります。このことを主催者に事前に伝えます。

## 8 誰と打ち合わせをするのが良いのか

会場参集型と違い、トラブルの際、待機の手話通訳が「会場担当者」を探しに行くことはできません。誰が担当で、トラブルや途中質問したいときには、「誰に」聞いたら良いのか、打ち合わせで確認しておくで安心です。\*「6」にも明記

## 9 自宅での手話通訳について

- ① 自宅で実施する際、背景はバーチャルにはせず、白、青等の無地が良いです。
- ② 通訳者間のみで連絡できる方法を確認できると安心です。  
(LINEでの連絡を取る等)
- ③ 自宅で実施する場合の守秘義務、手話通訳自身のプライベートルームが映ってしまうこと等を十分に注意します。
- ④ 自宅の通信環境を整える（複数のパソコンや家電機器などがインターネットにつながっている。またはアクセスが集中する時間帯は画像処理が遅くなる場合があります）

- ⑤ 自宅に宅配が来る、犬の鳴き声がある、隣の TV の音があるなど音の環境調整を事前に行ってください。

## 1 0 ◆ 録画の問題

主催者が録画をする場合には、事前に派遣元に確認をしていただきます。

手話通訳はその場限りの情報保障であり、後日配信する場合には、通常の手話通訳派遣としてではなく、オンデマンド（アーカイブ）配信での手話通訳派遣になりますので、契約の方法が変わります。

## 1 1 ◆ 🍀 オンラインのメリット・デメリット

～これまでのオンライン派遣を通じて、感じてたこと～

### メリット

- ・交通手段のない場所や夜の時間帯の派遣に、自宅等から通訳ができることで、移動にかかる疲労度が軽減されます。
- ・講師に協力を得やすく要望もしやすいと感じます。どう映っているか、全体の映像も気にしていただけます。
- ・手話通訳者等だけが情報保障の環境づくりに奔走するのではなく、主催者も環境づくりに協力的で、情報保障の大変さに気が付いていただけます。
- ・感染等からのリスクから回避できます。

### デメリット

- ・通信が安定する保障がない。
- ・顔を隠すことができるので、聴覚障がい者の反応がわからない。
- ・通訳者同士の連携がとりにくく、フォローや調整ができにくい。
- ・通訳者が各自宅で通訳を実施する場合、通信の状況に差が生じる。
- ・手話通訳者自身または主催者が PC 操作、ZOOM 等の操作、トラブルに対応できないと情報保障が成立しないことがある。

## 1 2 ◆ ホスト役が留意する事（事例）

●参加者としての聴覚障がい者（講師以外）が発言する場合、その方へのスポットが当たらず、なかなか読み取りができなかった。

ホストがその方へスポットをあてていただくか、手話通訳者が探し出してスポットを当てるかしないと、読み取り作業ができません。誰がその作業をやるのか、事前に確認ができると良いと思います。

●講師が聴覚障がい者の場合、読み取っている手話通訳だけが画面に出てきて、

肝心な手話指導をしている聴覚障がい者にスポットが当たっていなかった。

参加者がお持ちの通信機器によっては、今「話している人」が優先的にスポットが当たってしまい、手話をしている聴覚障がい者（声無し）顔が映らないことがあるようです。

～最後に～

## 1 2 ◆ オンラインに向かない現場はあるか

オンライン通訳は、あらゆる現場において有効な通訳手段であるとは、言えません。

今回は団体派遣を中心にご説明をしていますが、前述した「**個人派遣**」の場合には、言語の橋渡しだけでなく、援助技術が求められることもあります。また周囲の状況を伝える現場の場合にも、オンラインは向かないことをご理解ください。